

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	荒川区立 汐入こども園
所在地	荒川区南千住8-9-3

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園のすぐ隣には、都立汐入公園が広がっている。どの学年も日頃から身近な自然に親しみ、季節の移り変わりを感じ様々な植物や生き物に興味をもって関わっている。日常的に自然と関わり遊びに取り入れているが、デジタル機器等を活用し新たな視点で自然を見ることで、より探究的に自然と関わったり感じたりし、子供たちの興味関心をさらに深めるために、テーマを自然とした。

### 2. 活動スケジュール

- |         |  |
|---------|--|
| 1学期     | 夏野菜の栽培、収穫を行う。<br>地域の公園に散歩に出掛け、自然と触れ合う。   |
| 2学期     | 継続して地域に散歩に出掛け保育者や友達と一緒に身近な自然と触れ合う中で、季節による変化に気付いたり、自然物や生き物の観察や採取をしたり、共通体験を積み重ね、興味関心を高められるようにする。 |
| 6月～(随時) | 各学級で子供たちの興味に応じ、自然物や植物、自然に関わるものの探究活動を行う。  |

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】

・図鑑・本 ・タブレット端末 ・電子ルーペ ・電子顕微鏡 ・デジタルカメラ

【環境の構成】

- ・栽培活動を通して植物に興味をもてるよう、生長の記録を写真に撮って掲示する。学年によってあえて植える植物名を伏せ、予想したり自分なりに調べたりできるように図鑑を用意しておく。
- ・散歩の際には、虫かごや袋を持参し、発見したものを園に持ち帰れるようにする。
- ・自ら調べたり比べたりできるように、図鑑・本・タブレット端末・電子ルーペ・電子顕微鏡などを保育室に設定する。
- ・取組の様子や発見、変化、継続している様子が視覚的に分かりやすいように写真に撮って掲示する。
- ・発見したものを見やすいように設置し、友達のものと同じ見比べたり自分なりに考えたりできるようにする。

#### 4. 探究活動の実績

##### < 活動の内容 >

###### 2 歳児「やさいのおなか」

- ・『やさいのおなか』の絵本の読み聞かせを聞き、実際に普段食べている身近な野菜のおなかはどうなっているか見たり触れたりする。
- ・その子なりのいろいろな方法で野菜と関わり、比べたり数えたり、感触を楽しんだりする。

###### 3 歳児「どんなおと？」

- ・紙や葉っぱの音の違いから興味をもち、身の回りのものを鳴らし音探しをする。
- ・素材や鳴らし方の違いで出る音が違うことに気付き、保育者や友達同士に発見した音を紹介したり、新たな音を探して繰り返しいろいろなものを鳴らしたりする。

###### 4 歳児「ドングリっておもしろい！」

- ・身近な公園のいろいろな場所に散歩に出掛け、秋の自然物に興味をもち、遊びに取り入れる。
- ・拾ってきたいろいろな種類のドングリを分けておき、見比べたり、電子顕微鏡で拡大したり、水に漬けて変化を観察したりする。

###### 5 歳児「とりをよぼう」

- ・絵本や図鑑を参考に、鳥を園庭に呼ぶための方法を考える。
- ・エサ台、看板、餌や新鮮な水など必要なものを考え、友達と意見を出し合い協力・分担しながら場を整え鳥を観察する。

##### < 活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり および 活動の様子 >

###### 2 歳児「やさいのおなか」

- ・保育者が実際に子供たちの目の前で野菜を半分にして見せると、歓声上がる。野菜ごとの断面の形の違いだけでなく、色や匂い、種の形の違いなどにも気付き、自分なりの言葉で表現していた。
- ・実際に野菜に触れることで、硬さやねばねばする感触などにも気付き、繰り返し手に取っていた。スタンプにして押すことで断面が「形」としてさらに意識され、見立ててスタンプ遊びを楽しむ姿も見られた。
- ・ピーマンの種を指で取り出し、皿に集めて数えたり、皿を揺らして音を鳴らしたりして楽しむ姿も見られた。
- ・葉っぱ付きのニンジンを見て、『おおきなかぶ』のごっこ遊びをしたり、友達と一緒に野菜と関わることを楽しんでいた。
- ・保育者が子供たちのつぶやきや発言、動きを言葉にして返したり笑顔を送ったりすることで、安心して自分なりの探究を継続する姿が見られ、1時間弱という長い時間楽しんでいた。



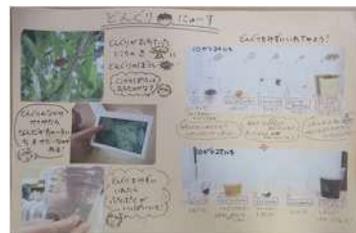
### 3 歳児「どんなおと？」

- ・いろいろな材料、道具、ものなどを手に取り、鳴らし方・叩き方を工夫しながら繰り返し試し、素材の違いによる音の違いに気付いていた。
- ・子供の気付きを大事にして活動を始めたことが、主体的に探究を楽しむ姿につながっていた。
- ・音だけでなく感触も楽しむ姿も見られ、それぞれの楽しみ方で探究していた。
- ・子供の自由なイメージ・表現を大切にすることで、発見を保育者へ自分なりの言葉や動きで伝える姿が多く見られた。
- ・保育者が「どんな音？」と問い掛けながら、子供からでた表現をそのまま繰り返し、一緒に音探しを楽しむことで、子供たちの「もっと他の音を探したい」という意欲につながっていた。



### 4 歳児「ドングリっておもしろい！」

- ・自然物コーナーを保育者が設定したことで、子供の探究活動につながっている。今回のコーナーは、子供がそこに行くだけで興味もてる、集中できる、わくわくするという要素があったことで、探究が広がっていた。
- ・自然物そのものに興味をもち、関わる（つぶす、むく、水にいれるなど）という、4 歳児なりの姿が保育の中で見られた。自然物そのものとじっくり関わり、探究していく機会を十分保障することができた。
- ・一人ひとりの発見の紹介の時間を設けることで、個々の興味が学級全体の興味へとつながっていた。自分一人の考えではなく、友達の考えを聞き、自分の考えを改めたりさらに考えを巡らせたりする姿がたくさん見られた。



### 5 歳児「とりをよぼう」

- ・「やってみたい」という願いや気持ちが探究の出発点になっている。子供たち自身の思いから始まった取組の中で、試行錯誤を繰り返しながら、主体的に関わる姿がたくさん見られた。
- ・友達関係の深まりもあり、気付きや発見を友達同士で伝え合ったり、相談して物事を決めたりするなど、同じ目的に向かって一緒に進めていこうとする姿が見られた。観察していく中での変化を友達同士で伝え、さらに抱いた疑問を自分たちで調べたり試したりと探究が深まっていった。
- ・保育者が子供たち自身で考えられるようなアドバイスをしたり、必要な場面での投げ掛けをするなど援助しすぎないことで、自発的な探究を楽しむ姿につながった。
- ・子供たちの思いをひろい、やりたいことを実現できる環境をそっと整えたり、見守ったりしたことが興味関心を広げ、さらなる探究心を広げていくきっかけとなった。



## 5 . 振り返り

- ・子供たちの探究の様子、気付きや工夫をひろって認める言葉掛けをする。子供たちから引き出したい姿を意識して、どのように声掛けを行うと探究が深まっていくか考え、言葉にもこだわっていく。
- ・保育者同士の援助の方向性の共通理解と連携が大切である。
- ・子供たちの遊びや活動の様子を見ながら、環境の再構成をする。活動をその日で終わりにせず、子供たちの興味や遊びの様子から、翌日以降の遊びにつなげる。
- ・ICT 機器は「時空を超えて」記録できるという良さを生かし、保育の中でも活用していく。
- ・個々の知的好奇心の度合や物事への興味の範囲は様々であるため、無理に学級全体で一つの探究を進めようとせず、それぞれの探究を支えながら、タイミングを見て援助していく。

以上